



当社は、HS財団の動物実験第三者認証施設です

第56号

2012年(平成24年)5月1日(業務企画部発行)

株式会社日本バイオリサーチセンター

Nihon Bioresearch Inc.

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地

TEL 058(392)2431 FAX 058(392)2432

URL: http://www.nbr.co.jp/

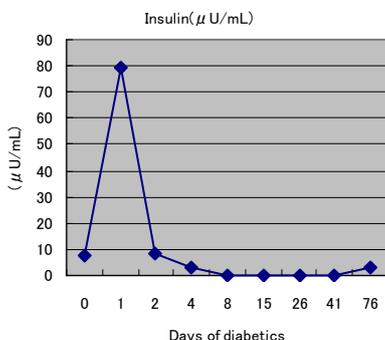
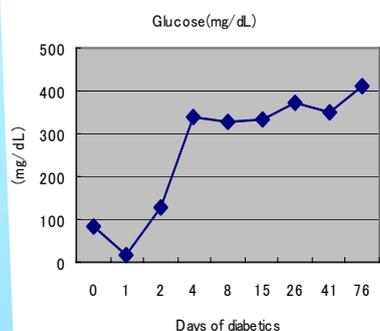
## ミニブタを用いた糖尿病モデルのご紹介

当社では、マウス・ラットのI型およびII型の糖尿病モデルを用いて、多くの化合物を評価しています。また、これらに加え、ミニブタでI型糖尿病モデルを作製し、ミニブタでの特徴(体の大きさや耐糖能など)を生かした医薬品や医療機器の評価試験を実施しています。

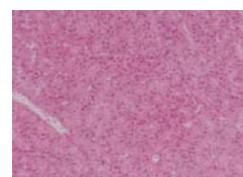
—糖尿病モデルにおける血液生化学及び病理組織学的所見—



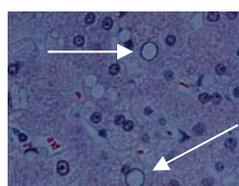
動物種 : ミニブタ(NIBS)、雄  
誘発物質 : Streptozotocin



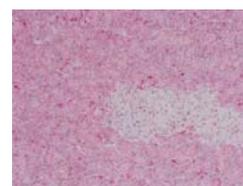
遠位尿管の拡張、近位尿管の空胞形成



ランゲルハンス島の消失



肝臓:核糖原(核内へのglycogen沈着)



正常の肝臓

学会参加の  
お知らせ

第55回日本腎臓学会学術総会(パシフィック横浜)にて発表 開催期間:2012年6月1日(金)~3日(日)

演者:杉浦孝宏 演題名:ラットを用いたオイパロミン誘発造影剤腎症の確立(演題番号:0-195)

発表日:2012年6月2日(土) 15:30~16:30

場所:第7会場(414+415)

日本実験動物医学会シンポジウム(別府国際コンベンションセンター)にて発表

演者:狩野真由美 演題名:医薬品/医療機器開発におけるミニブタの有用性について

発表日:2012年5月23日(水) 13:30~15:40

場所:D会場



佐部利 典彦のアートギャラリー(56)

岐阜県出身(1969~)

タイトル:GO HOME

作者の言葉

ワークショップで間伐材を輪切りにした板に出会って、何かつくりたくなってできた作品です。この木材は木の根元



の方のもので、人の元になるのは、家族だと思ひ、イメージがわきました。

サイズ:35cm x 40cm

『心の絆 - その56-』

傘売りの兄と草鞋(わらじ)売り弟の子供を持つ母親が居ました。母親は雨が降ると、草鞋が売れないと弟の事を心配し、また、晴れると、傘が売れないと兄の商いを悩み、お地蔵さんに、どうしたらいいでしょうと、毎日お祈りしていました。すると、ある日、お地蔵さんは、「雨が降れば、傘が売れて兄は喜ぶだろう。また、晴れると、草鞋が売れて弟が喜ぶでしょう」と母親に説いたという民話があります。お分かりのように、事の結果は何も変わりませんが、物事を不足や不満から捉えるか、感謝やいい事から捉えるかで、人の心や気分は大きく変わり、悩みや不足に思っていたことは悩みや不足でないということに気づく話です。私たちの生活の中にも、こうした物事を不満や不足から捉えていることが結構あり、それが憂いの原因になっている事が幾つもあるように思います。健康であること、職場や仕事があること、三度の食事が食べられること、家庭があること、そして、なによりも今、生きる時間を得ていることなど、全て感謝に値することです。恵まれ過ぎて感謝すべきことに気がついていないことに、私たちは気がつかないといけません。今が幸せと思えない人に、一生、幸せは来ないように思います。